

令和7年度 横浜デジタルアーツ専門学校 学校関係者評価委員会報告書

(令和7年4月～令和8年3月)

0. 実施状況

学校統括責任者指示の下、教学責任者が自己評価表を作成し、教職員リーダー12名でそれぞれの項目について点検、評価を行い、取りまとめを行った。評価は、「1（不適切）～4（適切）」の4段階評価とし、併せて、可能な限り根拠や課題を明示するように努めた。

自己評価を実施後、専門分野における業界関係者、卒業生、接続がある学校関係者らから組織される学校関係者評価委員会を開催。自己評価報告に基づき、委員に評価・意見を求めた。指摘された改善点について、あるいはその後の学校運営の進捗により必要となった課題について、改めて教務部で検討を行い、対応を進めている。

1. 開催日時

令和8年8月25日（火）13:00～14:30

2. 学校関係者評価委員

関 克則氏	校長	神奈川県立神奈川産業高等学校	校長
工藤 幸久氏	企業等委員	横須賀商工会議所	専務理事
北川 貴和子氏	企業等委員・卒業生	株式会社高陽印刷所	取締役
上坂 伸夫氏	企業等委員	株式会社フジパシフィックミュージック	エグゼクティブプロデューサー

3. 出席教職員

山上 紀彦	グループ長	宮下 隆友己	教務チーム	上席専門官
高内 一平	教務チーム GL	木村 稔	教務チーム	上席専門官
指澤 祐二	教務チーム GL	藤田 昇	教務チーム	主任
高原 誠	教務チーム 課長補佐	高田 知佳	教務チーム	専門官
鈴木 伸幸	教務チーム 課長補佐	神林 香里	教務チーム	副主任
藤原 光洋	教務チーム 課長補佐	高濱 由布子	教務チーム	
坂口 雅子	教務チーム 課長補佐			



3. 自己評価報告と学校関係者評価・意見、及びその後の対応状況

令和7年4月1日より令和8年3月31日までの学校運営についての自己評価報告、委員の意見、ならびに意見を踏まえた対応は以下のとおり。

(1) 教育理念・目標

<報告>

- ・教育理念・目標は、「高度な技術力の習得・プレゼンテーション能力の育成・豊かな人間性の涵養」とし、デザイン分野、ゲーム分野、音楽分野等の人材育成を行っている。
- ・学生一人ひとりにノートPCを貸与し、自宅等でも継続して学習できる環境を整備している。
- ・教育課程表、学科ルーブリック、科目ごとのシラバスを作成し、学生に提示している。
- ・非常勤講師との意識統一、教育の質保証のため、年2回の講師ミーティング、授業後のミーティング、授業終了報告等を実施している。
- ・令和3年度より3つのポリシーを制定し、入学案内書等に掲載している。

<評価・意見>

- ・教育理念や学校運営について、細かく分析されており、適切に運営されているとの評価をいただいた。
- ・時代の変化に対応して新しい技術を取り入れながら、これまで培ってきた教育の中で守るべきものについても取捨選択していくことが重要との意見があった。

<対応>

- ・引き続き教育課程編成委員会等を通じて業界の意見を集約し、教育理念に基づく人材育成を行うとともに、社会や技術の変化に対応した教育内容の改善を進める。

(2) 学校運営

<報告>

- ・年度当初に事業計画・予算を策定し、理事会、学園管理職会議、本校教務会議、募集会議、就職会議、学年会議、学科会議、グループリーダー会議、朝礼等を通じて学校運営の進捗状況や課題を共有している。
- ・担任業務、学生支援業務、学生募集業務等の増加に対応するため、令和7年度は教員3名を増員した。
- ・学籍管理、成績管理、証明書発行、学生募集等のシステム化を進め、業務の効率化を図っている。

<評価・意見>

- ・学生数が多い中で、教職員が多岐にわたる指導・支援を行っていることについて評価をいただいた。
- ・教職員の増員が進んでいることを踏まえ、業務分掌について、役割の見直しやジョブローテーション等も含めて検討してはどうかとの意見があった。

<対応>

- ・教職員配置及び業務分担について継続的に見直しを行い、業務の効率化を進める。
- ・学校関係者評価委員会へ提供する資料についても改善し、学校全体及び学科ごとの状況がより分かりやすく伝わるよう工夫する。

(3) 教育活動

(3)-1 カリキュラム（教育課程）

<報告>

- ・「職業実践専門課程」として教育課程編成委員会を年2回開催し、企業・業界関係者から意見を聴取し、カリキュラムの改善を行っている。
- ・企業連携授業42講座を実施したほか、企業からテーマをいただいて実施する企業連携プロジェクト22件を実施した。
- ・新技術への対応や流行・トピック的な学習に対応するため、選択授業「プラスα講座」や特別講座を実施している。
- ・学生募集イベントや入学試験等を通じて入学前の高校生の状況を把握し、課題設定や学習スピード等に反映している。

<評価・意見>

- ・学校として時代に合わせてカリキュラムを検討していることについて評価をいただいた。
- ・AIを含めた新しい技術を積極的に取り入れ、学生が複数の分野を横断する「クロススキル」を身につけることが重要との意見があった。
- ・Webとイラスト、デザインとレイアウトなど、複数の専門性を組み合わせることで、企業における活躍の幅が広がるとの意見があった。
- ・AIについては、単に利用方法を学ぶのではなく、基礎的な知識・技能を身につけたうえで、AIの出力等を適切に判断する力を育成することが重要との意見があった。
- ・AIの利用に伴う情報漏洩等のリスクについても、学校として一定のルールを設ける必要があるとの意見があった。

<対応>

- ・AIをはじめとする新しい技術について、各学科の特性に応じた活用方法を検討するとともに、基礎的な専門知識・技能と組み合わせて活用できる教育を推進する。
- ・生成AIについては、教職員・学生双方が適切な利用方法や情報管理等について共通認識を持てるよう、ガイドラインの整備を進める。
- ・複数分野の知識・技能を組み合わせ活用できるクロススキルについても、学科間の連携を含め、教育への反映を検討する。

(3)-2 教員の質確保・研修等

<報告>

- ・教員の質確保のため、学歴や業務経験、人物等について総合的な基準を設けて採用している。
- ・年度目標をグループ、個人ごとに設定し、中間・年度末に上長面談を実施して、業務状況の評価・改善を行っている。
- ・教員の指導力・技術力強化のため、業界状況を把握するための研修や、学生指導上の課題に対応する研修への参加を行っている。

<評価・意見>

- ・(特になし)

<対応>

- ・引き続き、各分野の最新技術や業界動向を把握するための研修への参加を進めるとともに、教員の専門性及び指導力の向上を図る。

(3)-3 インターンシップ・成果発表等

<報告>

- ・各学科で企業実習・就業体験を実施し、令和7年度は38件となった。

- ・企業からテーマをいただいて実施する企業連携プロジェクトを 22 件実施した。
- ・グループワーク、アクティブラーニング、プロジェクト型学習等を授業に取り入れ、コミュニケーション能力の向上を図っている。
- ・前期発表会及び後期発表会「YDA EXHIBITION」を実施し、対面での作品展示や口頭発表を行った。また、企業を招聘し、作品への評価・フィードバックや採用を目的とした学生との面談等を実施した。

<評価・意見>

- ・インターンシップについて、実施実績だけでなく、企業側からの評価やフィードバックを整理し、中高生や外部に対する学校の教育成果として発信するとよいとの意見があった。
- ・企業との連携を通じて社会との接点を増やすことは、学生の職業意識を養ううえでも重要との意見があった。
- ・中小企業では一人の社員が担う役割が大きいため、単に指示されたことを行うだけではなく、目的や目標を理解し、業務を俯瞰して考えられる人材が求められるとの意見があった。

<対応>

- ・インターンシップ及び企業連携プロジェクトについて、実施件数だけでなく、企業からの評価や学生の学び等も把握し、教育成果として活用する。
- ・企業との連携機会や成果発表の場を継続的に設け、学生の職業意識、コミュニケーション能力及び実践力の向上を図る。

(4) 教育成果

(4)-1 就職

<報告>

- ・専門セクションであるキャリア担当職員が学科・担任と連携し、就職指導を行っている。
- ・求人データベースを Web 公開し、学生が求人情報や過去の就職活動資料を閲覧できる環境を整備している。
- ・令和 7 年度卒業生の就職内定率は 91.7% となり、目標の 90% 以上を達成した。一方、専門就職率は 54.1% となり、目標の 60% 以上を下回った。
- ・専門職志向を重視した指導を行った結果、目標職種への挑戦を継続する学生が増え、内定保留や卒業後も就職活動を継続する学生が生じた。
- ・入社前講座を実施し、内定辞退者ゼロを達成した。

<評価・意見>

- ・就職支援が仕組みとして構築され、就職実績につながっていることについて評価をいただいた。
- ・専門学校卒業生は専門的なスキルを有することが強みとなり、即戦力として採用されるケースもあるため、一般的なスキルではなく、自身が持つ専門性や特化したスキルを明確にアピールできるようにするとよいとの意見があった。
- ・専門就職率について、今後も専門職への就職を重視していくことが望ましいとの意見があった。
- ・職業理解や仕事への意欲、作品の質などが採用時の評価につながるため、早い段階から職業理解を促すことが重要との意見があった。

<対応>

- ・専門職への就職を重視した指導を継続し、就職活動開始前の学年から職業理解やポートフォリオ制作等の準備を進める。
- ・学生が自身の専門性や特化したスキルを企業に適切に伝えられるよう、作品制作及び就職指導を強化する。

(4)-2 退学

<報告>

- ・退学率 5%以下を目標として、退学注意者の早期発見、個別面談、保護者面談、専門家によるカウンセリング等を実施している。
- ・令和 7 年度の退学率は 5.4%となり、目標を 0.4 ポイント上回り、未達となった。
- ・主な退学要因として、既往症や入学前からの持病等の悪化に伴う通学困難、入学後の学習ミスマッチに起因する意欲・モチベーションの低下など、体調面・メンタル面の問題が増加傾向にある。

<評価・意見>

- ・高校、専門学校、大学を問わず、ドロップアウトする学生が増加している状況であり、学校が寄り添った指導を行っていても、完全になくすことは難しいとの意見があった。
- ・企業においても精神的な負担から退職するケースが増加しており、学生の段階からストレスへの対処方法や自身の健康を守るための知識を身につけることが重要との意見があった。

<対応>

- ・退学に至る要因を継続的に分析し、出席状況や学習状況等から早期に変化を把握できる体制を強化する。
- ・カウンセラー等の専門家との連携を継続し、学生自身がストレスや困難に対処するための知識・方法について学ぶ機会の充実を検討する。

(5) 学生支援

<報告>

- ・学生のメンタル面での不調に対応するため、カウンセラー1名を配置し、カウンセリングルームの定期開設、メール・オンラインによる相談等を実施している。
- ・令和 7 年度は相談件数の増加により予約待ちが発生している。
- ・犯罪・薬物・消費トラブル、災害発生時の対応、経済的支援等について、必要な指導・支援を行っている。
- ・奨学金利用のサポートや独自の学費分割納入制度等を整備している。
- ・保護者に対して、成績・出欠状況等を定期的にメールで送付している。
- ・学生自治会に対して別途予算を措置し、学生主体のイベント開催等を支援している。

<評価・意見>

- ・学生が精神的な負担を抱えるケースは社会全体でも増えており、学生の健康を守るための支援が重要との意見があった。
- ・学生が自分自身のストレスへの対処方法を身につけることについても、教育・支援の一環として検討してほしいとの意見があった。

<対応>

- ・カウンセラー等の専門家との連携を継続するとともに、相談件数の増加を踏まえた相談体制の充実を検討する。
- ・学生が自らの心身の状態を把握し、ストレス等に適切に対処できるよう、健康教育・学生支援の充実を図る。
- ・引き続き、学生の主体的な活動を支援する。

(6) 教育環境

<報告>

- ・全学生にノート PC 及び制作ソフトを貸与し、自宅等でも学習できる環境を整備している。
- ・イラスト演習教室、DTM 教室、撮影スタジオ、体育館等を整備している。
- ・新学科開設に伴い、2 号館・3 号館の設備を改修し、学生数や授業内容に応じて教室・実習環境を整備している。
- ・令和 7 年度は 2 号館 7 階・8 階、3 号館 8 階教室を大幅に改修し、新規教室を設置した。

<評価・意見>

- ・(特になし)

<対応>

- ・学生数及び教育内容の変化を踏まえ、必要な教育設備・学習環境の整備を計画的に進める。

(7) 学生募集

<報告>

- ・年度当初に学科ごとの募集人数、広報予算、広報媒体、進路説明会、オープンキャンパス等を定め、定期的に進捗を確認しながら募集活動を行っている。
- ・「作品見学&学校説明会」「体験入学」等を年間を通じて実施し、学校・学科・カリキュラム・学生作品・設備・学費・入学方法等について情報提供を行っている。
- ・AO 入試合格者を対象としたプレスクールや、入学直後の導入教育を実施し、学校・学科への理解促進及び入学後の学習への円滑な移行を支援している。

<評価・意見>

- ・少子化等により高校の志願者が減少する中で、入学者を確保していることについて評価をいただいた。
- ・高校生の進路選択において、保護者の意見がより大きくなっているとの意見があった。
- ・漫画・イラスト等の興味から入学を希望する学生について、将来の職業や仕事への理解を早期から促すことが重要との意見があった。

<対応>

- ・オープンキャンパス等を通じて、専門分野の学習内容だけでなく、卒業後の職業やキャリアについても具体的に理解できる情報提供を進め、入学後のミスマッチ防止に努める。
- ・高校生だけでなく保護者に対しても、本校の教育内容や卒業後の進路について分かりやすく情報提供していく。

(8) 社会貢献

<報告>

- ・神奈川県専修学校各種学校協会が主催する高校生向け講座「仕事のまなび場」「総合学科高校夏季公開講座」、小中学生向け「小中学生のためのチャレンジスクール」等に参加している。
- ・中学校・高等学校からの依頼を受け、職業講話等も実施している。
- ・学校休業日に教室や体育館等の施設を地域に貸し出している。
- ・未来のクリエイターである中高生を対象にキャラクターイラストコンテストを開催している。

<評価・意見>

- ・(特になし)

＜対応＞

- ・引き続き、教育資源や施設を活用した地域貢献、職業理解につながる教育活動及びコンテンツ産業の発展に寄与する活動を継続する。

(9) 財務

＜報告＞

- ・入学者の確保に努め、入学者の急激な変動を抑えながら、収益事業を展開することで財政基盤の安定を図っている。
- ・人件費、広報費等について学園ガイドラインに従い予算・収支計画を立案し、理事長承認後に執行している。
- ・内部監査、監事監査、監査人監査等を実施し、適正な監査体制を整備している。
- ・財務情報を学園 Web サイトにて公開している。

＜評価・意見＞

- ・(特になし)

＜対応＞

- ・引き続き、適正な予算執行及び財務管理を行い、学校経営の安定化に努める。

(10) 法令等の遵守

＜報告＞

- ・設置や運営に関わる法令を遵守し、所管の神奈川県への学則変更等の届出及び現況調査を実施している。
- ・個人情報保護規程を整備し、学生募集要項等においても必要な情報を周知している。
- ・「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、自己評価及び学校関係者評価を実施し、その結果を Web サイトにて公開している。

＜評価・意見＞

- ・(特になし)

＜対応＞

- ・引き続き、関係法令及び各種規程を遵守するとともに、自己評価及び学校関係者評価を通じた教育活動・学校運営の改善を進める。

以上